

2006 年度

科目名 文化財研究法 2B	対象学科・学年 文学部文財 2 回生	担当者 犬木 努
授業テーマ 文化財研究の基本を学ぶ（その 2）——自己の問題関心を高めるために		
授業の概要と目標 文化財学科に入学して早 1 年。そろそろ、文化財学（考古学、歴史学、美術史学）の面白さ、難しさがわかってきたことであろう。4 月には下級生も入学してきた。のんびりしているとあと 3 年なんてあっという間である。このあたりで心機一転、自分を見詰め直す作業も必要であろう。1 年間の授業を通じて、自分が何を学びたいのか、何をしたいのか、そして自分に何が足りないのかを自問してほしい。この授業は、そのためのきっかけづくりの場にしたいと考えている。		
評価方法 出席点、レポート、授業中の発表成果などを総合して行う。		
テキスト 使用しない。授業時に適宜資料を配布する。	著者	出版社
参考書 授業中に適宜指示する。	著者	出版社
授業スケジュール・内容 「考古学」という学問分野の「厚み」「深さ」を多少なりとも体感してもらうべく、先行研究への正しいアプローチについて習得することを目標とする。 前期 ・最初の数回は考古学の基本理念についての講義を行う。 ・あとは、考古学上の基本文献をいくつか選び、読み進めていく。毎回、担当者を決めて発表形式で授業を行う。 後期 ・それぞれ自分の好きなテーマを選び、先行研究についての問題点を整理し発表してもらう。毎回発表形式の授業を行う。 ※授業回数は、後期に隔週で 7～8 回を予定している。 ※このほか、その時々の新発見を話題にしたり、実際の遺物を用いながら、考古遺物の観察方法にも触れる。		